

甲南Today

2011 MAR. NO. 38

甲友のリレーションで、未来を紡ぐ

「人財」支援団体 WE BAS

学内外で活躍する甲南大生たち

生協のKさん

病魔と闘った女性の記録—

前編



〈特集1〉
いきものって、フシギ！
そして、おもしろい！
—生物学の魅力—
〈特集2〉
理工学部が、
より魅力的に！

〈特集3〉
あの先生は、今。
衣笠茂 名誉教授
〈特集4〉
1+1=3!?
—就業体験で知ったマジック—

甲南Today NO.38

2011年3月1日発行 [発行] 甲南学園広報部 〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1 TEL 078-431-4341 (代)

650年間変わらない能の魅力を受け継ぎ、未来へ繋ぐ甲南ボーイ。



文学部 4年次
谷口 宜照 (芸名: 上田 宜照) さん

大学では、日本の仁俠映画を通して家族の姿を探究するユニークな卒論を書く予定。「能以外の違う世界を研究したら？」と、甲南の先生が視野を広げてくれた。

「真の教育とは、人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の才能を引き出すことである」と提唱した、甲南学園創立者 平生鈆三郎。そんな平生の想いを込め、今、甲南学園で光り輝いている学生・生徒をご紹介します。

厳しい芸道と学業との両立に励み、プロの能楽師として活躍する甲南大生がいる。文学部4年次生の谷口宜照さんだ。谷口さんは、観世流の職分家*である上田家に生まれ、2歳で初舞台を経験し、昨年芸歴20年を迎えた。「謡うたい」詞を通常の電車のなかで暗記すること、夜中や明け方に稽古をすることも日常です。世阿弥の『風姿花伝』**のなかに、「時分の花」という能の言葉があります。若さという美しい時期は世間にもはやさがちだが、それを超えると花はなくなってしまう。その若いうちにこそ謙虚に精進して技術を磨け」と説いた言葉なのですが、私も25歳くらいまでに技術をしっかりと身につけたい。あと3年くらいしかないの、毎日が真剣勝負です。落ち着いた眼差し、穏やかな微笑み、礼儀正しい口調の谷口さんは、大学生でありながら非常に大人びた雰囲気を感じます。「生まれた星のもと、私は跡継ぎですから、上田家を背負って立たなければならぬ。伝統文化を担う覚悟もできています。そのために、技術を磨いて、人間としても誇れる舞台人になりたい。実は、遊びたいと思うときもあります(笑)。大学で1年次生のときに自分の人生プランを書く授業で、若いうちに実力をつけて40歳から遊ぶ、って書いたことがありました。きくと、40歳になったら「まだまだ」って思うんですけどね。」

大人と対等の厳しい世界で修練を積んだ谷口さんだが、甲南の仲間と集まれば、普通の大学生と何ひとつ変わらない。「中学・高校・大学と甲南で得た最大のものは、良き友人たちです。カラオケも大好きなので、一緒に帰って大はしゃぎすることもあります。舞台にいつも多くの友人や先生がかけつけてくれるのが何よりうれしいです」。ちょっと敷居が高いと思われるが、ちなな能の世界だが、その魅力について谷口さんはこう語る。「実は結構身近なテーマも多いんですよ。順風満帆に生きてきた人がちょっとしたこと突然苦しい境地に立たされて心が荒んだりする姿とか、私自身も共感できることが多いです」。人間の幸せや不幸といふものは、昔も今も同じだと、谷口さんは能から学んだ。そして、「能もまた昔から今までのスタイルを変えていない」と言う。「能は650年間変わらずにあり続けていることがひとつの文化です。変えることも可能でしょうけど、変わらない良さがひとつの世の中にはあると思うんです」。日本固有の伝統文化を受け継ぎ、未来へ脈々と伝える担い手として、これからの谷口さんの活躍が期待される。

*1 職分家 昔から各地で能楽の技術指導を行ってきた由緒ある家柄。
**2 風姿花伝 15世紀に能の大成者である世阿弥が記した能楽論。



能「翁」の千歳役を務める谷口さん。

夙川能舞台「瓦照苑」
(阪急夙川駅徒歩2分)
<http://www.kanshou.com/>
谷口さんが出演する能公演が鑑賞できます。入門教室や一日体験教室、お子さまも参加できる「親子教室」も開催されています。



インターネットで甲南へ <http://www.konan-u.ac.jp> 携帯電話で甲南へ



Konan mobile



▲山荘付近からの眺望。

山荘改築（実際には新築に等しかった）の間も、検分をかねて何度も登っている。すぐ夫人をはじめ家族、学生、友人、知人たちを同伴した。毎回徒歩での登山（ふつう阪神急行の六甲駅が発地だった）であり、冬季にも登っている。今の私たちには考えられない。先生は夜行で東京から朝8

平生精神を語る 言葉を紡いだところ

筆者は、2年前、山荘のあった場所を確かめる目的で当時の経済学部長ら3人で六甲山上を訪ねたことがある。学部開講の「地域再生システム論―六甲山の活性化」の参考にするためだった。山荘近くに古くからある商店の主人に昔の地図（昭和11年版、写真参照のコピーをいただくとともに、近くを案内していただいた。日記にあるように茅海の絶景が広がり、平生先生が眼前にした同じ眺望を目にすることができた。しかし、山荘の正確な場所そのものは、結局確認できなかった。今も宿題として残している。

歴史をリアルタイムで読み解く 『平生 紘三郎日記』第二巻の販売について



『平生 紘三郎日記』第二巻（A4版、648ページ、定価20,000円（税抜））を販売します。第一巻同様、甲南学園関係者の方（卒業生、在学生、ご父母、教職員等）は、10,000円（税抜）でご購入いただけます。

第一巻
発売中

●ご注文・ご購入に関するお問い合わせ

甲南大学生協書籍部
Tel.078-441-7901 Fax.078-441-7915

▶ 昭和11年当時の六甲山周辺の地図



▲平生郎周辺

平生先生と六甲山

―平生日記から―

平生日記に
しばしば登場する六甲山

六甲山は、甲南人にとって学園名の由来する特別の山といえる。平生先生にとっても特別に思いのある山だった。平生日記にもしばしば登場する。日記は、毎日だいたい天候の記述からはじまり、特に季節を感じさせる日には住吉の自宅から見る六甲の描写が続くことが多かった。

たいして、「外人が遊戯に於いてすら其の規模廣大にして永久的にして、我国人の如く小規模にして短見的にあらざる」とを言い、彼ら学生の「将来に於ける責任が決して軽少ならざることを自覚せしめたり」と書いている。

経済学部 教授
杉村 芳美

時に住吉に着き帰宅してそのまま登山、という日もあったから驚く。山上での楽しみは多く、日記には、野外でのなごやかな食事の様子やダイヤモンドポイントから見る大バノラマの感激などが記されている。山荘の工事が完成した大正10（1921）年5月には、先生は平生・鈴木両母堂にツツジが満開の絶景を見せたいと山上へ連れ登っている。両母堂は高齢ゆえに山籠りの登山であった。「両老母の満足は此上もなく、七十以上の老嫗にして此如き楽を得るもの天下幾人ぞと大に感謝を表せられた」とある。

平生先生は、その後、六甲山頂に山荘を購入した。大正9（1920）年11月、54歳のときである。旧制桃山中学校のローリングス校長の夏別荘だったもので、星野行則氏（後に大阪ロータリークラブ初代会長）の紹介による。その別荘は長く手入れされず「破屋」といったさまで、大がかりな修繕が必要だった。井戸水が得られず、水の確保が課題だった。しかし、山荘からの眺めは素晴らしい。購入のために検分した日には「南面は…茅海の展開せるを見、紀泉の山峯は薄霽の間に隠見し、淡路嶋は青螺を羅列せるが如く、実に一幅の画を見るが如く」と記している。

2 平生先生と六甲山 ―平生日記から―

理工学部 生物学科再編

3 いきものつて、フシギ！ そして、おもしろい！ ―生物学の魅力―

5 理工学部が、 より魅力的に！

6 あの先生は、今。

衣笠 茂名 名誉教授（元 文学部教授 第5代学長）

7 1+1=3!?

経営学部 ビジネスリーダー養成プログラム
1期生によるインターンシップレポート
―就業体験で知ったマジック―

9 なるほど！甲南アカデミア

化学で医療を革新する。
夢では終わらない、
夢のような新素材開発をめざす。
フロンティアサイエンス学部 生命化学科 長濱 宏治 講師

12 中学・高校に勤務する 甲南卒業生が伝える教育現場レポート いまだきの学校教育。

裏表紙 ONLY ONE 個性を力へ VOI.9

15 高・中 TOPICS

どうやったらテニスがうまくなるか、
そればかり考えている。
甲南高等学校 上原 伊織さん

16 フランス甲南学園トゥレーヌだより フランスで学ぶ日本人高校生が イギリスへ留学

17 IT'S KONAN STYLE

どんな状況でも決して手を抜かない。
目の前の仕事を一生懸命やれば、
次のステップは自ずと訪れると信じています。

ぴあ株式会社 ライブ・エンタテインメント局
ライブマーケティンググループ
宣伝・広告営業統括 執行役員心得 石橋 栄司氏

19 学内外で活躍する甲南大生たち

「人財」支援団体 WEBAS
「大学生活を楽しくするのは自分自身だ！」

22 生協のKさん

―病魔と闘った女性の記録―
く前編く

23 こちら甲南特搜部

稲刈り・イモ掘り体験
in 奈良・明日香村

24 甲南フォーラム



【表紙の絵】西井 義晃 画

「高等学校・中学校南館と銀杏の木」
西井 義晃さん プロフィール 1961年甲南大学経済学部卒業 元自由美術会員



いきものって、フシギ！ —生物学の魅力—

特集①
理工学部 生物学科再編

理工学部各学科の再編について、
本誌において順次紹介してまいります。
今号では、生物学科再編の
コンセプトについてお伝えします。



理工学部生物学科主任
日下部 岳広教授

生物学者になったきっかけは、ウルトラマン!?

私がそもそも生物に興味を持ったのは、ウルトラマンの怪獣に憧れたことがきっかけです。「なぜ、ウルトラマンでなく、怪獣の方なの?」と思われるでしょう。いろいろな生物からデザインされた怪獣たちがカッコ良かったんですよ。他にも、みつばちが主人公になったアニメ「みなしごハッチ」を見れば、その世界で暮らしたくなったほど…。でも、身近な本物のいきものを見たら、テレビのなかの怪獣よりもっとフシギで魅力的だったのです。考えてみてください! 同じ空を飛ぶ昆虫でも、トンボと蝶はその姿かたちがまったく異なります。虫が嫌いな方も多いと思いますが、羽や目など、パーツの一つひとつをよく見てみると、とても美しいフォルムをしているんですよ。虫は虫でも「図鑑の虫」だった私は、ページをめくると、おなじみの昆虫だけでなく、恐竜、アンモナイト、三葉虫といった現存しない生物や、まだ見たことのない生物と出会えたことで、興味がどんどん広がりました。こうして研究者になった今も、私は子どもの頃と同じ気持ちで生物と向き合っています。ほかにも、花の美しさに魅せられた人、ひとすくいの海水の中にたくさんの微生物がいることに神秘を感じた人…等々、対象はさまざまでも、子どもの頃にいきものや草花に興味を持ったことが生物学者になる扉を開いたという経験を持つ人はたくさんいます。「いきものって、フシギだな、キレイだな」。これこそ、今も私たちが研究に打ち込むエネルギーの源です。

そして、

おもしろい!

1 「いきものが好き」このピュアな気持ちを大切に。 キーワードは、育てる→観る→調べる。

このたび、甲南大学では、理工学部を再編、つまりより魅力的にリニューアルすることとなりました。本学の生物学科は、設立以来50年以上にわたり、純粋生物学に取り組んでいます。これは、私立大学としては全国でも珍しいことで、大きな特徴であり、伝統になっています。このたびの再編でも、生物学の根本を支える「いきものって、フシギだな、おもしろい」という気持ちを大切に、それを学生たちに存分に味わってほしいという発想で、カリキュラムや環境を整備したいと考えました。

特徴的なのは、「生物を育てる」→「観る」→「調べる」というアプローチをきちんと行うことができるカリキュラムを構成していることです。「育てる」「観る」ということにスポットを当てる教育は、他大学の生物学教育ではあまり例がありません。なぜ、それが大切なのでしょう? 生物学では、生物そのものを観る力が最も基本的な力として問われるからです。いきものを育てていると、日々いろんなことが起きます。さきほどお話ししたように、「おもしろい」「きれいな」とか、「フシギだな」と思うことがたくさん生まれます。生物学を探究するうえで、この反応や疑問がとても重要と言えます。10人の学生がいれば10通りの違った「きれい」や「フシギ」を感じるでしょう。これらを大切に探究することこそ、研究へのモチベーションとなり、大きな発見の一步につながるのです。そこで、本学科を再編するにあたり、教員が研究対象とするさまざまな生物の栽培・飼育・培養を目的とした10施設を新設。学部生たちが日々生物を育てて観察し、実験などにも活用していきます。

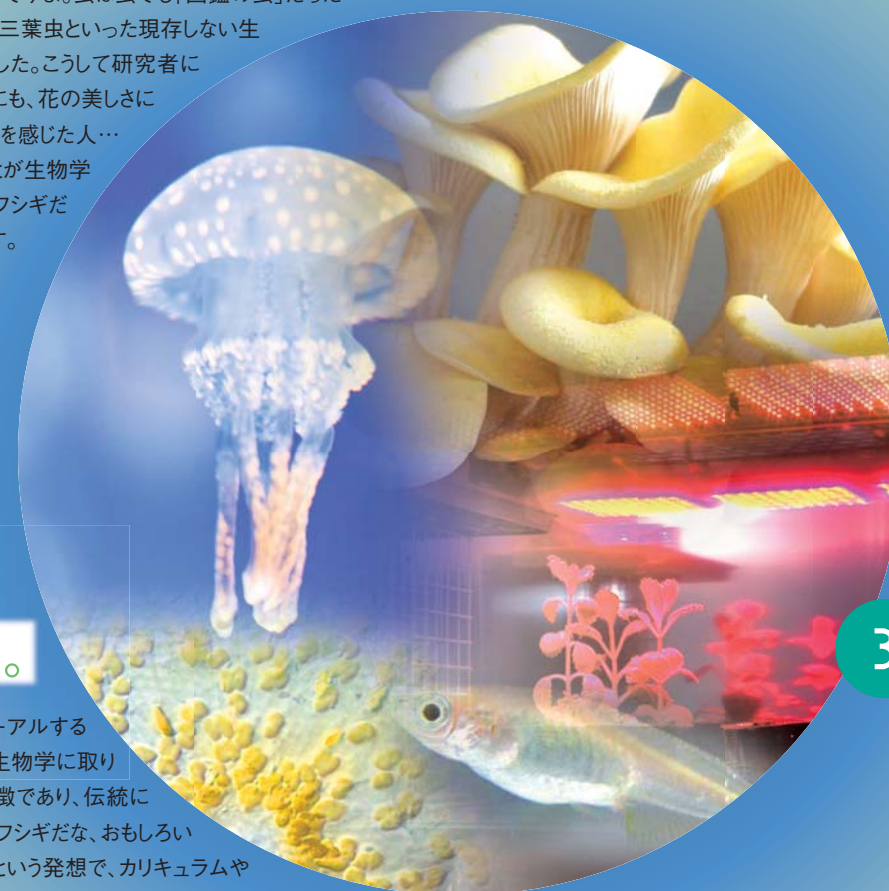
私たちの研究は、いきものの「命」を犠牲にすることも多いもの。この施設で日々いきものに触れることで、「命」の尊さも学んでほしいですね。



アクアリウム実験観察室

2 えっ? ホヤを研究するとヒトのことがわかる!?

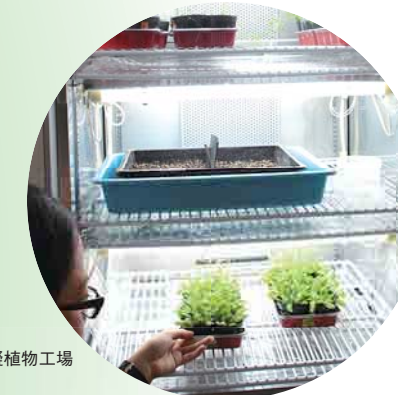
現在、私は、人間の脳の仕組みや機能を知りたくて、貝に似たホヤという生物を研究しています。「人間の脳を知りたいのにホヤを?」って思いますよね? (笑) 実は、われわれ人間とホヤはもとは同じいきものだったんです。それぞれ進化の過程が異なり、今は別のいきものになりましたが、人間とホヤは同じ脊索動物で体の基本構造も似ています。卵から脳などの組織や器官が作られるときの遺伝子を調べると、人間とホヤでは大部分が共通で、ホヤは、人間の脳がどのようにつくられ、どのように働くか、さらにはどう進化してきたかを知る格好のモデルになるというわけです。人間の脳の仕組みや機能を探るには、なんと1,000億個という天文学的な数の細胞の分析が必要で、「宇宙で一番複雑な構造体」と言われるほどなんです。かたや、ホヤは神経細胞がたった100個。ホヤを研究に使う方が非常に効率的であることがわかっていただけますよね。このように、生物を理解することは、人間を理解することに通じる場合があります。医学をはじめとする最先端研究にも、こうした生物の基礎研究から発見・解明したことを使うケースが多いんですよ。私のホヤをつかった研究も、腎臓や眼の病気の原因解明に役立っています。



生物学専門実験機器室



生物学基礎実験室



模擬植物工場

3 多様な生物の存在は、40億年にわたる実験結果。

生物学科では、9つの研究室があり、それぞれがユニークな生物を研究しています。そして、私の研究以外でも、アルツハイマーの予防・治療などの医療はもちろん、バイオ燃料開発などの環境問題や資源エネルギー問題、食料問題などに役立つ、社会的貢献度の高い研究が日夜進められているのです。このように、生物学科の最大の特色は、多様な生物に触れながら、社会に貢献する研究ができること。「おもしろい」「知りたい」気持ちで一心に研究に取り組んでいると、何かの役に立つきっかけを偶然つかむことが多いんです。私の場合は、ホヤを使ってアプローチしていますが、方法はさまざまです。だからこそ、せっかく生物学を勉強するのなら、多様な生物に直接触れて、多様なアプローチ法を学べるほうが、将来にもメリットが大きいはず。地球上に生命が誕生しておよそ40億年間、生物は完璧ではないからこそ、新たな進化の試みが行われてきました。多様な生物の存在は、およそ40億年にわたる地球の壮大な実験そのものですし、私たちいきものの体自体が、歴史の積み重ねと言えるのです。だからこそ、少しオーバーかもしれませんが、私たちの生物学科が多様な生物に触れながら学べば、いきものの40億年の歴史を背負っているということ、つまり生物学の懐の深さを体感できるのです。何だかロマンを感じませんか?

生物学科(理工学部) ホームページ
http://www.konan-u.ac.jp/faculty/science_and_engineering/biology/index.html

生物学科は、
世界標準の授業。

「育てる」「観る」といった体験型の教育と両輪で、専門分野の教育も重視しています。生物科学を勉強する世界中の学生にとってのバイブルの専門書「THE CELL 細胞の分子生物学」を1・2年の授業で読破。世界標準の授業を展開し、研究の礎を養います。



こちらのQRコードで
携帯電話からも
アクセスできます。

理工学部

物理学科 生物学科 機能分子化学科

理工学部が、より魅力的に！

理工学部では、中期計画を策定し、2010年度より数年をかけ学生をサポートする環境整備を進めています。

先輩大学生や 大学院生がサポート

学生たちの自主的な学習を積極的に支援する学修支援施設を設置。退職後のベテラン教員が主となって、基礎的科目の理解を促すことを目的に学習相談を行い、きめ細やかに学習および大学生活全般に関する相談に応じる態勢を整えます。さらにこのスペースは自主学習（自主ゼミ・勉強会など）にも使用でき、先輩大学生や大学院生がサポートしますので効果も断然アップします。カリキュラム以外の実験も、自主的に納得ゆくまで行えます。

基礎実験施設 を設置



理工学部 共用機器施設 を設置

1.2年次における 基礎実験が充実

高校では一般的にあまり実験が行われていない現状から、大学の専門実験にスムーズにつながるよう、1年次前期に高校と大学とのかけ橋となる実験科目を設けています。さらに、その後の1・2年次における基礎実験を充実させる基礎実験施設も整備します。

学修支援施設 を設置

学部・大学院 施設・設備を充実

快適な教育・研究環境の整備をはかります。

先端機器を使って 共同研究

理工学部内の先端機器を集めて共同利用できるようにするなど学習・研究の楽しさを思う存分実感していただけるものとなります。

CLOSE UP

地学研究室

学科を超えて、 自然科学の広い素養を養う。

理工学部には、3学科のほかに、地学部門の基礎実験施設として地学研究室があります。自然の事物や現象には、そもそも物理・化学・生物・地学という境界があるわけではありませんから、各学科の専門的研究を行うにも自然科学の広い素養が本来は必要です。そこで地学研究室では、物理・化学・生物と関連する地学の各分野について、基本的な知識を講義科目で、研究の方法や技能を実験科目を通して教授しています。



天体観測

本学から約25kmの神戸市西区神出町には広野環境教育野外施設があります。地学実験では、ここで天体観測と地質調査の1泊2日の野外実習を行っています。



岩石研磨機

岩石実験では、岩石をダイヤモンド切断機でカットし、写真の研磨機を用いてプレパラートを作成し、偏光顕微鏡で観察します。

特集③

あの先生は、今。

これまで数多くの名物教員を生み出してきた甲南大学・甲南高等学校・中学校。先生方は、教育者として、ときに人生の先輩として、多くのことを学生たちに教えてくれました。今回の特集では、教え子や教職員など、接する人々を「衣笠ファン」にしていった人間味あふれる衣笠先生から談話をいただきました。



衣笠 茂 名誉教授
(元 文学部教授、第5代学長)

米寿を迎え、かつての教え子たちが 趣向を凝らしたお祝いを

昨年、満88歳の米寿を迎えました。おかげさまで元気に暮らしております。子供の時は虚弱でしたが、不思議に生きのびました。学徒応召、シベリア抑留、胃の手術などいろいろな目にありましたが、ここまで生を長らえたのは幸運でした。

6月が誕生月でしたが、甲南大学の卒業生の方々が内輪で祝賀会を開いてくださいました。その折、「私と西洋史」という題で30分のスピーチを依頼され、私の戦時体験が研究方向にどう影響したかをあらためて振り返る機会を得ました。古代ギリシア史のツキジデスを主対象においたのは、今から思うと青年時代の体験が作用したからでしょう。

また思いがけなく、昔、顧問をした甲南大学交響楽団の卒業生の方々が「キヌガサ・

キネン・オーケストラ」と命名した交響楽団を臨時編成をして、10月9日に甲友会館大ホールで米寿祝いの演奏会を開いてくださいました。この豪華で洒落たお祝いには驚きました。甲南大学卒業生の方々の温情に感激した1年でした。

甲南を取り巻くみなさんの おかげで歩んできた人生

私は、旧制甲南高等学校の卒業生ですが、甲南との関わりは、まず生徒としての7年間ですね。次に、シベリア抑留から引き揚げてから、旧制高校最後の年に1年間非常勤講師をさせていただきました。そして、旧師のお呼びで昭和33（1958）年に甲南大学に着任してから28年間。合計して36年間、阪急岡本駅から岡本キャンパスまでの道のりを通ったことになります。

今は旧制高校時代の生き残りの語り部

のようにもてなされて、甲南学園史に関係されている方々がときどき大学に呼んでくださいます。

先輩、卒業生、元同僚の方々の援助をよかったです。ありがとうございましたので、私が一生を送れたのは、本当に甲南のおかげと言ってもよいからです。

甲南の建学精神は 永久に廃れない

私が教員として甲南大学にまいりました昭和33年といえば、大学が設立されて8年目のことでした。今の大学西校舎（現 情報学部棟、生物学科棟）部分にまだ甲南中・高があった頃ですから、キャンパス内では中学生から大学生までが一緒に学んでいた訳です。大学は、文・理・経の3学部だけで、大学としての設備もまだ整っておらず、今の豪華な環境で勉強をする学生さんは本当に恵まれています。

当時は、初代の荒勝学長の時代でした。荒勝先生は物理学者として世界的存在でしたが、すぐれた思想家でもあり、事あるごとに、創立者、平生さんの精神を大学も受け継ぐものであると力説し、新しい教育方針はなにも加えられませんでした。戦後の民主化時代にあわてて教育方針を変えなければならなかった大学もあるなかで、甲南学園は建学精神が一貫していて幸福でした。今から思うと学園の伝統保持のうえで、荒勝学長の役割は大きかったと思います。

その頃、学生さんの中で、「平生イズム」という聞きなれぬ言葉が使われ、德育、体育、知育のうち、体育と知育の順番はどちらが先かという微笑ましい談義がされていたのをよく思い出します。甲南の建学精神は古代ギリシア以来の人間教育の根本精神ですから、廃る心配は永久にないのでよかったですね。

それにしても、いくつもの学部、大学院、研究所が増設された現在の甲南の発展ぶりに驚嘆しています。この中からたくさんの人材が育っていくと思うだけでも楽しいことです。今年は大学60周年。また第歩を踏み出す意義深い還暦の年になりますね。これも楽しみです。

交響楽団OB会
「甲響会」によるコンサート
「キヌガサ・キネン・オーケストラ」が
開催されました！



衣笠先生が米寿を迎えられたことを祝し、2010年10月9日（土）甲友会館大ホールにてコンサート「キヌガサ・キネン・オーケストラ」が開催されました。同コンサートは、衣笠先生が顧問を務められた本学文化会交響楽団のOB・OG有志のみなさんにより企画・実施されたもので、総勢60名のオーケストラによる豪華なステージとなりました。プログラムには衣笠先生自らがタクトを振られる曲目もあり、聴き応え、観応えともに満点の内容でした。コンサートを鑑賞された旧制甲南高校のご卒業生からは「甲南の伝統がしっかりと受け継がれているのを見て、大変感動した」という感想を頂戴しました。



人と協力することの
大切さを知ることが
できました。



経営学部
ビジネスリーダー養成プログラム1期生
嶋 宏香さん



経営学部
ビジネスリーダー養成プログラム1期生
北井 一基さん

トーホーでの経験は、
今後に生かせる
強みになりました。

当インターンシップは、経営学部ビジネス・リーダー養成プログラムにおける「ビジネス・プロフェッション・コース」のプログラムとして実施しているものです。

大学で学んだ経営学の知識が企業の現場でどう生かされているのか、大学での学びでは不足する企業経営の知恵・工夫は何か、就業体験先が抱える経営課題は何か、当該課題にどのような提案が可能かなど、学生が自らの体験を通じて、問題意識をもち、解決策を提案することをねらっています。

インターンシップ3ヵ月間に対しては、18単位の正規の授業単位を認定しますが、その成績評価は、企業様側に行っていただきます。この意味で、本コースは産学連携による新たな教育プログラムの試みといえます。

インターンシップ・プログラムご協力企業(平成22年度)

アシックス商事(株)／加藤産業(株)／神戸信用金庫／
(株)神戸ポートピアホテル／(株)シマブンコーポレーション／
(株)トーホー／三ツ星ベルト(株)(50音順)
社長様をはじめ社員みなさまにご高配を賜りましたことを深く
感謝申し上げます。

ビジネス・リーダー養成プログラムには、他にもグローバル・ビジネス・コース(ドイツ・ケルンビジネススクール〈専門単科大学〉での4ヵ月間の英語での経営学の授業履修と自発的なインターンシップ経験)、アカウンティング・プロフェッション・コース(公認会計士・税理士などに求められる会計専門知識・技能の習得に特化した学習と3年次早期卒業による会計大学院進学)を設定しています。

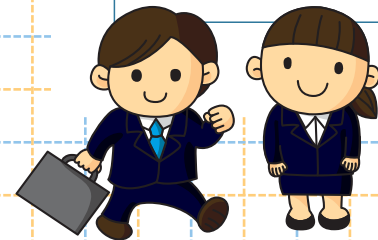
・ビジネス・リーダー養成プログラムHP

http://www.konan-u.ac.jp/~biz/special_pg/index.html

・ビジネス・リーダー養成プログラムに関する資料のご請求先

電話:078-435-2441 経営学部事務室(平日9時~17時)

FAX:078-435-2543 Eメール:ei@adm.konan-u.ac.jp



Q 社長の夢は何ですか？

オンリーワン事業者になること、全国制覇して不動の地位を築くこと。周りの人に「トーホーがなければ困る」と言ってもらえたら嬉しいね。「夢でご飯は食べられない」と言われるけれど、私は食べられると思う。それに、夢がないとおもしろくないじゃないか。

「企業は『人』である」。これは、トーホーの経営理念であり、社長が常に意識されていることだそう。さらに、社長はいつも「1+1=3」にも「0.5」にもなる」とおっしゃっているそう。

特集④ 経営学部ビジネスリーダー養成プログラム1期生による インターンシップレポート

1+1=3!?

ー就業体験で知ったマジックー

私たちは2010年9月1日から3ヵ月間、フルタイム・インターンシップ(就業体験研修)の機会をいただきました。お世話になったのは、「食を通して社会に貢献する」をコンセプトに、街の地元スーパーから外食産業向け卸までを行う総合食品企業の株式会社トーホーです。



企業のトップが
果たす役割を
教えてください！



まずは現場で奮闘！

私たちが最初に配置されたのは、卸の営業所やスーパーの店舗、いわゆる「現場」でした。人事総務の奥野部長が、「まず現場を知ること、管理部門(人事・財務・経理等)の役割も具体的に理解することができると考えてくださうたからです。

これはじめの2週間は体力勝負の日々でした。20kgはある油の一斗缶を両手に持ち走りまわったり、昼のラッシュ時のお惣菜販売に間に合わせるため、熱い揚げ物をひたすらパック詰めしたりという「現場」の大変さを経験しました。しかし、同時に、自分たちが必死で準備した惣菜をお客様が買ってくれる喜びも味わえました。

会社の経営を担う 管理部門の役割を知る

3週目からは、本社の人事・財務・経理といった管理部門での研修でした。M&Aの実践的シミュレーションとして、過去の資料から企業価値を算出し決定するなど、さまざまな実務体験を積むとともに、高度な専門知識を習得できました。

ここで、私たちは、非常に印象的な管理部門の役割を拝見しました。一般に、管理部門は「コストセンター(直接的に利益を創出しない部署)」という認識がありますが、トーホーの管理部門では、「現場」の利益率を少しでも上げるために、毎月削減できる経費を取り上げて会議で検討し、現場の経費までもコントロールしているのです。このように、努力や工夫をコツコツと

積み重ねることが会社を支えているのだということを実感しました。

希望が叶い社長と面談 ー企業は『人』であるー

さまざまな部署の業務を体験させていただいたことで、「各部署それぞれに使命があり、社員一人ひとりがそれを果たすため役割を持つ」ということがよく理解できました。では、企業のトップである代表取締役社長はどのような役割を担っているのでしょうか。実際に素朴な疑問ですが、だからこそ知りたい！社長のお話を伺いたい！と強く思いました。奥野部長にご相談したところ、約1時間、上野裕一社長が私たちのために時間を作ってくださいになったのです。

当日、カチコチに緊張する私たちの質問に、社長は終始ニコニコとされながら丁寧に答えてくださいました。その一部を、以下にご紹介させていただきます。

Q 企業における代表取締役社長としてのリーダーシップで、重要なものは何ですか？

まずは長期ビジョン、会社の方向性を指し示すということ。思いが1つでないと組織はバラバラになってしまう。さらにはどんなに素晴らしいことでもスピード感を持って決断する、モチベーションをいかに上げ、保つか。いろいろあるが基本的には、「認める、信じる、任せる、褒める」を積極的に行って自発性を引き出したいと考えている。

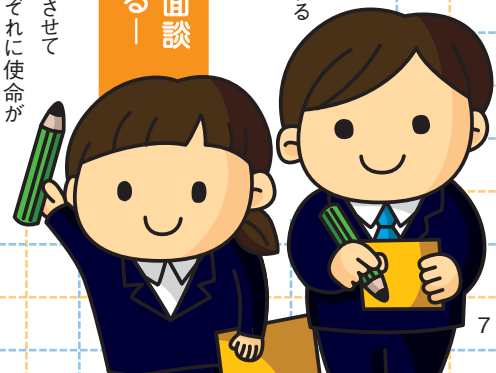
Q 私たちが就活生に期待されるものは何ですか？

自分の考えをしっかりと持っていること。も

インターンシップの 経験は、今後強みになる

ここでご報告させていただいた以外にも、今回の研修では、トーホーという実際の企業で働いていっしょにやるみなさんに、たくさんのことを教わり、助けていただきました。この経験は、これからの就職活動中はもちろん就職後も、苦難を乗り越えるための指標となり自分たちの強みになると信じています。そして、今後も出会いを大切にしながら成長していきたいと考えています。

最後になりましたが、今回、貴重なインターンシップの機会を与えてくださったトーホーのみなさま、甲南大学の先生方をはじめ、私たちを取り巻く方々に心から感謝を申しあげます。ありがとうございました！



なるほど！ 甲南 アカデミア

先生、
知の最前線を
教えてください

化学で医療を革新する。 夢では終わらない、 夢のような新素材開発をめざす。

フロンティアサイエンス学部
生命化学科
長濱 宏治 講師

2000年金沢大学工学部卒業、2008年関西大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士（工学）。2008年南デンマーク大学核酸センター博士研究員を経て、2009年より現職。専門は、バイオ高分子化学。

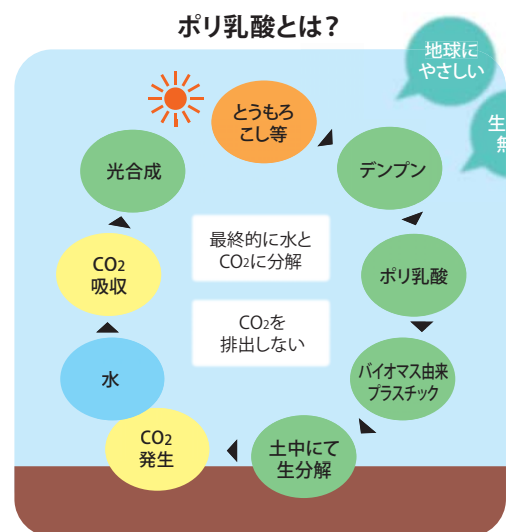


2009年、甲南大学に誕生したフロンティアサイエンス学部（F・R・S・T）では、生命現象の神秘を探究する「バイオテクノロジ」と分子や原子を操る「ナノテクノロジ」を融合した、新しい学問「ナノバイオ」を展開しています。「ナノバイオ」が幅広い分野で次世代科学のキーテクノロジとして注目を浴びるなか、先端医療に役立つ新素材開発に挑む若き研究者、長濱宏治先生の研究に迫ります。

「自分にしかできない方法で医療に貢献したい」と、製薬企業MRから研究者へ。

みなさんは、「ポリ乳酸」という素材を知っていますか？ポリ乳酸は、グルコース（ブドウ糖）を乳酸菌で発酵させて得られる乳酸を化学的に連結して作られる高分子です。実用化の歴史は浅いのですが、ポリ乳酸は近年急速に私たちの身の回りに広がっている新素材で、コップや皿、洋服、漁業用網、農業用シートなど

に使われているほか、携帯電話、パソコンなどの電子機器や自動車用部品などにも使われはじめ、現在さまざまな分野でも注目されています。その理由は、何より、地球環境にやさしい素材であるということ。第一に、ポリ乳酸は従来の石油由来のプラスチックとは違い、トウモロコシや米などの植物から得られるデンプン（多くのグルコースが連結した高分子）を原料として合成できるバイオプラスチックです。第二に、ポリ乳酸は環境中の水による加水分解や微生物分解によつて最終的に水と二酸化炭素に分解されるため、焼却処理に頼らない廃棄が可能になります。第三に、ポ



リ乳酸は分解過程で二酸化炭素を排出しますが、その一方で大気中の二酸化炭素を吸収して成長する植物を原料としているため、地球温暖化の原因とされる二酸化炭素を増やすことがないカーボンニュートラル素材です。ポリ乳酸はこのような性質を持つため、環境調和型プラスチックとして、環境・エネルギー、ライフサイエンスなどのさまざまな分野での実用化が期待されています（左図）。

一方、ポリ乳酸は生体内分解吸収性高分子であり、生体内で酸やアルカリにより乳酸にまで分解され、これが代謝されて体外に排出されます。乳酸は生体内に存在する物質であり、人体に無毒であるため、ポリ乳酸は生体適合性をもち、外科手術時に用いる縫合糸や、骨折時に用いる骨接合材など、生体内で使用できる医療材料（バイオマテリアル）としてもすでに実用化されています。しかし、ポリ乳酸は物性や機能のバリエーションが乏しいために用途の拡張性に欠け、縫合糸や骨接合材などの単純な用途のみに使用が限定されているのが現状です。そこで私は、ポリ乳酸をベースにした高機能なバイオマテリアルを合成し、それを用いることで初めて可能になる画期的な医療技術を開発することを目標に、日々研究に取り組んでいます。

私は大学で、細胞膜の成分であるリン脂質に倣って合成した両親媒性分子が自己組織的に形成するナノ粒子についての研究を行い、卒業後は製薬会社で約2年半勤めていました。MR（医薬情報担当者）として日々医療に携わるなか、「自分にしかできない方法で医療に貢献したい」という想いから大学院へ進学し、研究者になったという経歴を持ちます。そんな私の一貫した研究テーマは、人間の体のなかで活躍できる新素材を開発して、それらを医療に役立てることです。と言うものの、実は、バイオマテリアルとして認可されるまでには多くのハードルを乗り越える必要があるのです。たとえば性能がよい材料でも、安全面に課題があるものは決して認可されません。バイオマテリアルの開発をめざして研究する場合、「夢物語」では全く意味がありません。バイオマテリアルは「医療現場で使われてナンボ」のもので、すでに日本の厚生労働省やアメリカ食品医薬局（FDA）から、生体内での使用が認められており、人間の食品医薬局へ体内で「使える」ポリ乳酸に着目したわけです。

**知能をもつ材料を創り、
高い治療効果を達成する
薬物輸送システムを開発する。**

では、具体的にどのように画期的な医療が実現できるのか。たとえば、「生体内で徐々に分解される」というポリ乳酸の機能を利用すれば、少ない薬の投薬回数で効果を長持ちさせることができます。一般に、薬はさまざまな経路により生体内に投与されると、速やかに血液中に吸収され、薬物血中濃度が上昇します。その一部は血流を介して患部に移行しますが、大部分は全身、つまり患部以外の部位にも広範囲に拡がり、さらには代謝され、尿や便などとして体外排出されてしまったため、薬物血中濃度が時間とともに低下し、薬の効果は薄れていきます。そこで、薬の効きめがなくなる濃度まで低下するタイミングで新たに薬を投与するわけです。このような薬の個性（体内動

態）に基づいて、薬ごとに投与回数や投与量などが決められるのです。

一方で、糖尿病、自己免疫疾患（リウマチやクローン病など）、肝炎などの慢性疾患の薬物治療においては、薬の効きめを長期的に維持することが重要であり、そのためには薬の効きめが発揮される濃度領域を長期的に保つ必要があります。そのため患者さんは、一定の短い間隔で通院し、投薬を受けています。しかし、薬を中に閉じ込めたポリ乳酸ナノカプセルをつくり、それを体内に投与すると、ナノカプセルが体内で徐々に分解されていくとともに、閉じ込められた薬が徐々に漏れ出し、有効な薬物血中濃度を長期間保つことができるのです。投薬回数を軽減することで、患者さんのQOL[※]が向上し、社会復帰にもつながるでしょう。

ただ、バイオマテリアルとしてのポリ乳酸の特長は、主に加水分解性と生体適合性だけであるためになかなか用途が広がらず、ポリ乳酸の高性能・高機能化が将来に向けての大きな課題となっています。

そこで私は、ポリ乳酸に知能を持たせることにやり、この課題を解決しようと試みています。知能をもつ材料は「インテリジェントマテリアル」と呼ばれており、材料自体がセンサー（感覚器）、コントローラー（脳）、アクチュエーター（筋肉）を持ちます。インテリジェントマテリアル中のセンサー部位が、温度、pH、光、特定分子などの外部環境変化を感じ、その刺激をコントローラーに伝え、コントローラーがアクチュエーターに指令を出して所定の反応を行わせることで、物性変化・相転移・形状変化・応力発生などのダイナミックな動きを生み出し、その結果として、ある特定の機能を発現します。この応用対象を医療に向けたものが「インテリジェントバイオマテリアル」です。私は、将来の人間社会を支える基盤材料として期

※QOL…Quality of Lifeの略。「生活の質」と訳されることが多い。医療の場においては、治療効果を優先させるだけではなく、治療後も患者の生活の質がなるべく下がらないような治療を目指すことが重要となっている。厚生労働省のすすめる健康日本21においても、寿命の長さだけでなく、その人らしい社会生活を営める状態、いわゆる健康寿命をのばすこと、QOLの向上が目的として掲げられている。



待されているポリ乳酸を主な素材に用いて、高機能なインテリジェントバイオマテリアルを創出し、これによって初めて可能となる「材料主導型」の新しい医療技術を世界に向けて提案することを目的として、研究を行っています。その一例が、患部にのみ薬物を輸送するシステムです。

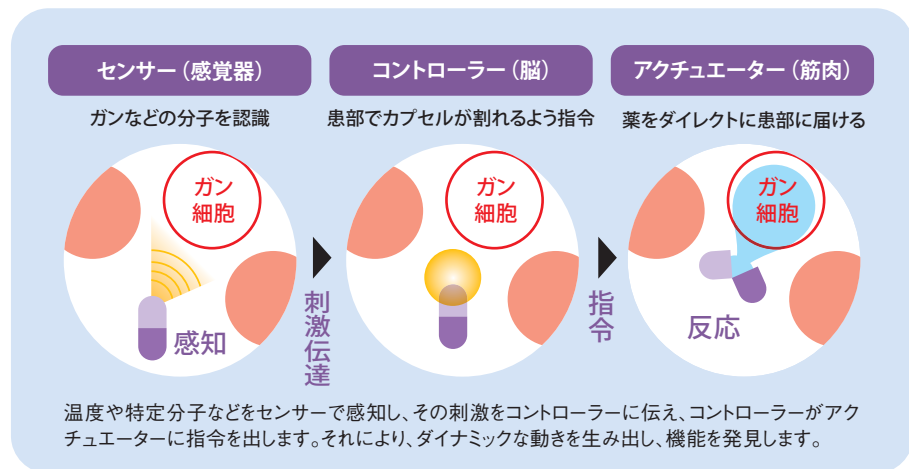
薬は血液を介して全身に拡散するため、患部に到達するのはごく微量となります。そこで、患部に到達すべき薬物量から逆算すると投与量が非常に多くなり、副作用が現れることがあります。そのため、一般的に薬は「必要な時に、必要な量を、必要な部位に到達させる」のが理想と言われ、そのための技術開発が世界中で進められています。薬の治療効果を高めることはもちろん、副作用の軽減も期待できるからです。

たとえば、ポリ乳酸ナノカプセルに、ガン細胞を感知し、そこでカプセルが自ら壊れて抗ガン剤を放出するようなシステムを組み込んでおくと、ガン細胞のみを狙い撃ちすることができるため、治療成果の向上とともに、抗ガン剤で避けがたい副作用の軽減にもつな

がります(左図)。

また薬の投与だけではなく、血管の狭さく(狭い部位)を認識して自ら膨らむことで、細い血管を押し広げるようなシステムを組み込めば、動脈硬化(脳梗塞や心筋梗塞)などの治療にも使えるのです。さらに、体が弱っている患者さんに負担をかけない治療(低侵襲治療)を実現することも可能になります。たとえば、室温から体温への温度上昇で液体からゲル(水を含んだ半固体物質)へと変化するシステムを組み込んだポリ乳

インテリジェントバイオマテリアルの仕組み



酸を開発しました。これにより、手術で切開しなくても、注射という低侵襲方法により、浅部臓器から深部臓器まで、あらゆる患部にゲルを投与することができます。また、この液体中に薬を混ぜておき、これを患部に注射すると、その部位で薬を閉じ込めたゲルができます。ゲルの中に入っている薬は一気に拡がらず、ゲルが分解するとともに少しずつ漏れ出すため、投与回数を減らすことによる副作用の軽減やQOLの向上、薬の局所(患部周辺)濃度を一定に保つことによる治療効果の向上をもたらします。

このような治療技術は、脳内、眼内、脊髄内など、切開を伴う手術が難しい部位の疾患において特に効を奏します。さらには、薬の代わりに細胞を生かしたままゲル内に閉じ込めることも可能であり、この技術を現在注目されている再生医療の分野などにも役立てることを考えています。

材料主導の治療は、「医療の質」の面でもメリットがある。

近年の医療の目覚ましい進歩は、医学や生物学の進展に加え、医療材料や機器の発展に基づいています。つまりこのことは、化学者なくして現代医療は成り立たないことを物語っています。高分子化学者である私が医療を変えることができるかもしれないと思うと、うれしいやりがいを感じます。新しい材料を生み出すことで、従来なかった治療技術を世界に提供でき、いままでは救えなかった人々を救うことができれば幸せですね。また、こうした材料主導の治療を追求するもうひとつのメリットは、「医療の質」の面でも向上が期待できることです。医師によって医療技術にばらつきがあり、医師の技量に委ねられている面も大きいのが、医療の現状でもあります。私の研究成果が実用化され、誰もが平等に安定した質の高い医療を受けることができるようになったらいいと思います。

いまどきの学校教育。

これからのこの国の未来を支えるのが教育である一方で、教育の現場ではさまざまな問題も山積しています。今回は、中学・高校に勤務する3名の甲南卒業生が教育現場の現状を伝えます。

中学・高校に勤務する
甲南卒業生が伝える
教育現場レポート

1 教育現場の今、教師の今

牧野 今日は、教育現場の現状について日々みなさんが感じていることをいろいろとお話できればいいですね。

藏田 牧野さんは大阪府下小中学校初の民間人校長だそうですが、なぜ民間企業から教育現場にいられたのですか？

牧野 57歳で当時勤務していた企業の管理職をリタイアすることになり、人事部の方から大阪府で民間人校長の募集があることを聞いたんです。で、応募してみたら、どういう訳か採用になって。

米田 まさに180度の転換ですね。

牧野 まず「校長って、何の仕事をしているねん？」というところからのスタートでした(笑)。前職で支店長や営業部長などを務めた経験から、校長の仕事も民間企業のマネジメントとほぼ同じで、経営資源“ヒト・モノ・カネ”の管理だと感じました。つまり学校なら、教員・設備や建物、予算をどう効果的に教育に生かすか。学校にも経営という視点は欠かせないですから。それと、私がめざしたのは、開かれた学校づくりです。就任早々、「私は素人です」と公言して、「学校の経営を全員でやっていきましょう」と呼びかけ、自ら情報公開するとともに、各先生にも情報を開示するように求めました。例えば全国学力テストなどの情報、教材研究に関する先生方の各活動などです。今までなぜかオープンにされていなかったんですね。その情報をもとに各教員が考え、課題を持って学校運営をしてほしいとお願いしたんです。最初はいろいろと抵抗もあったのですが、そうすると教員の方々の意識も非常に変わっていききましたね。

藏田 「学校の常識は、民間の非常識」と言われることも多いですが、民間企業との違いも大きいと感じられたでしょうね。

牧野 メーカーと違うのは、当然のことながら、扱っている対象が人間であるということ。教育の場合、成績優秀な生徒だけが大切な生徒という訳ではないですから。あと、教師という職業は、民間企業に比べて教員の方々のボランティア精神に頼るところが大きい仕事だと感じました。土・日の休日も、非常に低い手当でクラブの顧問や個別指導をしなければいけないので、大変な業界だなというのが就任時の印象でしたね。

藏田 牧野さんと違って、私は教師ひと筋24年で、教育現場しか知らないのですが、「民間的発想からズレているんだろうな」と思うこともありますね。だからこそ、個人的にはアンテナを高くもち、進路指導を担当しているため企業の方とお会いすることもあるので、そういった方々からお話を聞くことを大切にしています。

私はこの仕事を天職だと思っています。すよ。夜遅くまで就職や進学のための面接指導や補習などを行うことも多いのですが、「この子に合格を勝ち獲れるチカラをつけてやりたい」という想いによるところが大きい。だから、「定時になったからハイ終了。休日だからゆっくり」というわけにはいかないんです。「進路指導に“待つた”はなし」なんです。

米田 実は私も、この後、20時から個別指導のため、学校に戻るんですよ。

牧野 米田さんは、ご結婚もしていらっしゃるのですね。ご家庭との両立も大変でしょう。

米田 私は教師3年目なのですが、担任以外にも急に大きな仕事をまかされ始めたこともあって、正直非常に忙しいです。

牧野 一徳さん

米田 智華さん

藏田 康智さん



牧野 一徳さん
履屋川市立友呂岐中学校校長

1974年甲南大学理学部経営理学科卒業、1974年より松下電器産業(株)(現パナソニック(株))に勤務。その後大阪府下小中学校初の民間人校長に採用され、2009年より現職。教員としてのモットーは、「率先垂範」。趣味は、クラシック音楽で、在学中は交響楽団に所属。

土・日はハンドボール部の顧問で忙しいですし、家で翌1週間分のごはんもつくり置きしなくてはいけなくて(笑)。今年結婚したばかりなのですが、先輩の先生方から「学校で長い時間仕事をするのが決してベストな訳ではなく、工夫して自分のスタイルをつくればいいんだよ」とアドバイスをいただいています。

牧野 さきほどのお話に戻って、もうひとつ民間企業との違いがありますね。企業では新入社員で入って管理職、さらには社長とトップをめざす傾向が強いですが、教育現場には校長や教頭をめざそうと思う人は少ないですね。これは、責任が重くなり業務が増えるわりに手当てに差がないといった、待遇面での問題も大きいと思うのですが…。

藏田 確かに、私自身も現場で一生終わりたいですね。生徒の成長にやりがいを感じますから。ただこれからは、神戸市も少子化の影響や学区再編計画なども予想され、公立高校も生き残りがかかってくるでしょう。いい教員、いい生徒を集めていくことや、選ばれる“来てもらえる学校”になることが必要になってくるでしょうね。そのためには、企業の発想と真の教育理念を持ちあわせたリーダーの必要性も高くなるでしょう。

育大学にあえて行かなかったのは、専門分野をしっかりと勉強した上で、教員資格をとりたいと思ったからです。大学では日本文学を専攻しました。勉強以外にも、アルバイトや文化祭のスタッフなども経験しましたし、たくさん遊びました。その経験が役に立っていますね。いろいろな個性や価値観を持つ生徒を尊重してあげることが教育には大切ですから、自分の型にはまらず、視野を広げることができたと思います。もし、これから教員を志望される方には、いろいろなことにチャレンジされることをおすすめします。

牧野 私は、教師は、その教科のプロじゃないといけないと思います。たとえば、国語の教師で、字が下手だったり、筆順を間違えたりするのは論外。歴史も勉強してほしいですね。教養がなければ、深い授業もできないですからね。体育の教師なら、いろんなスポーツができるのは当然で、一番大切なのは体育大会で拍手喝采を浴びせることができる先生であること。組み立て体操やダンスを一致団結して演技させて、感動するストーリーをつくることができる教員です。要するに、教師の人間力が求められるということです。すごい先生だと生徒に思わせて、信頼力を勝ち取れないと、生徒たちはついてこないですから。



藏田 康智さん
兵庫県立神戸北高等学校教諭

1986年甲南大学理学部卒業。教員としてのモットーは、「教育はちっぽけな大人の再生産ではない。大きい小児をつくること。これが自分の天職だ」。「常に備えよ」。趣味は、授業や進路指導用のネタ／秘伝のタレ作り・探し。

2 これから教師をめざす人へ

ありますよ。翌日急い子になつてたりして(笑)。向こうから「先生、おはよう」と、ちゃんと挨拶してきたりして…。生徒は教師の様子をよく見ているし、私たちがどう出てくるかをちゃんと察知するんですね。

米田 わかります。うちの生徒たちも、朝私の元気がなかったら、「元氣ないやん?」「どうしたん?」と察知して心配してくれます。

牧野 世の中、楽な仕事なんてないですが、人間と向き合う教師という仕事は、特別な喜びや苦勞が多いものですね。

牧野 日本の教育について少し話したいなと思うのですが、アメリカの教育を見ると、少人数教育が徹底されていますよね。そういう点は、今後日本の教育でも必要でしょうね。少人数教育は、現代の日本が抱える問題と関係しています。昔と比べ家庭における子どものしつけができなくなっていると言われていますが、経済的な問題などさまざまな事情を抱える



米田 智華さん
神戸市立本庄中学校教諭

2008年甲南大学文学部卒業。モットーは、「夢をかなえたいなら、行動すればいい。あれこれと思んでいる間にも時間は経っている」。趣味は、読書(東野圭吾や重松清など)、食べること、ショッピング。

あまり、家での教育が難しい家庭も増えている。いわば、社会的な問題とも重なっている訳です。だからこそ、小学校で少人数教育による密度の濃い教育やしつけをしっかり行つて、人間力をつけて中学・高校へ進むことが、今後ますます必要になると思います。

藏田 おっしゃるとおりですね。家庭の話が出ましたが、モンスターペアレントという言葉も話題になるくらい、保護者との関係づくりも教師にとっては重要なテーマです。学校教育の基盤として、保護者と教師の間の信頼関係は不可欠です。話は少し逸れますが、たとえば子どもの卒業式に金髪スタイルで出席しようとする親御さんがいたら、「子どもにはルールを守らせ地毛で臨ませているのに、子どもの晴れ舞台に、親御さんが金髪というのはいかがでしょう? 少し控えめにしてください」と教師が注意できるぐらいの関係を普段から築いておくべきだと思います。

牧野 なるほど。ところで話は変わりますが、米田さんは、教師をめざして甲南大学でどんな勉強をされたのですか?

代から学校現場に触れる経験もできました。あと、1人ではなかなか難しい面接の勉強の場も設けてくださって、教職教育センターの方々の指導が頼りになりました。教員志望の方は利用しないともったいないですよ。

3 「教育」を仕事にする喜び

牧野 私には教師として教壇に立つた経験がないのですが、最後にみなさんに教職のやりがいや今後の抱負をお伺いしたいですね。

藏田 保護者の方々から預かった生徒を1人も脱落させることなく、学力もさることながら、人間力を養ってやりたいですね。毎年思うことであり、夢であり、それが仕事なんですけど。せっかく高校に入ってきたのだから、卒業して立派に就職・進学させてやりたい。高校は義務教育ではないのですが、「辞めたらいい」と言ってしまったら、自分は教師として負けのような気がします。

米田 私は教師になる夢が叶ったので、たくさんの生徒たちと出会うなかで1人でも多くの生徒に「この先生に出会えて良かった」と思ってもらいたいですね。

藏田 教師になつて良かったですか?

米田 教師になれたことはうれいし、誇りに思っています。でも教師になつて良かったかどうかは、私の満足度ではなくて、生徒たちが「この先生に会えて良かった」と思ってくれることだと思っています。

牧野 なるほど。私の場合、校長としての最大の仕事は、卒業式なんです。3年間よく頑張ったと、笑顔で卒業生を送り出したいですね。みなさんも「先生お世



教職教育センター共同研究・実習室にて

フランスで学ぶ日本人高校生がイギリスへ留学

フランスにある本校の生徒たちにとって、外国での生活は日常に過ぎません。そんな本校が行う交換留学は、単に外国を体験する、あるいは語学を学習するだけでは意味をなしません。そこで、本校の交換留学では互いの学校が受入れ生徒のための特別なプログラムを工夫し、8日間という短い期間ながら意義ある留学ができるように運営されています。とりわけ、その国の同世代の人間とより深く触れ合うことを通じて得られるもの、互いの違いや共通点を認識することが重要なポイントになっています。それは、多様な民族で成り立つ世界を理解する大切なプロセスだからです。

今回は、フランスの高校との交換留学に加え今年度より開始した、イギリスの高校（セントヘレンズ女子高校・ロンドン郊外）との交換留学を取り上げます。

高校生は万国共通！

この学校には授業の空き時間などに利用するための談話室があって、いつも誰かしらがいてよく話しかけてくれました。日本に興味があるみたいで、日本で流行っているファッションや音楽のことを詳しく知っているのには驚きました。「日本の歌を歌って！」と言われ、一緒に歌ったりもしました。また、生徒が集まると先生や勉強の愚痴が出るのは万国共通のようです。パートナーとは、将来の進路のこと、進学希望の大学のことなどもよく話しました。みんな親切でやさしく、いろいろな生徒と話をするのはとても楽しかったし、英語力を鍛えるよい機会にもなりました。イギリスの高校生が日本のことに強い関心を持っていることを知り、また、国は違っても同じ高校生同士で共感し合えることがたくさんあることがわかって、とても貴重な経験だったと思います。

（高等部2年 落合嶺陽さん）



広々としたキャンパスに佇むセントヘレンズ女子高校校舎

生徒が授業をつくる！

この留学で驚いたのは、日本の学校との違いです。なかでも語学は、8か国語が用意され、みな複数の外国語を学んでいました。中学生のフランス語のクラスでも、私たち日本人生徒よりもレベルが高いのにはビックリしました。さらに、大きな違いを感じたのは授業です。先生はあまり板書をしないので、内容を理解して自分でノートをとる、わからないことはどんどん質問する、意見があれば堂々と主張する、その意見に対して白熱した議論が展開される、といった具合で、生徒が授業に参加している、というよりもむしろ授業をつくっているという感じです。それと比べて、先生に当てられないように目立たない努力をしている自分が恥ずかしくなりました。私も頑張らないといけません。

（高等部1年 井上麗子さん）

日本人よりハイレベルな日本語！

私のパートナーは、アジアをつなぐ国際的な弁護士として活躍したいという夢を持っています。具体的な夢を持ち、まっすぐに目標に向かって努力している彼女の姿は、私にとって衝撃的でした。また、彼女の日本語は、私たちでも読むのが難しい漢字を使いこなすなど、驚くほど高度なレベルです。しかし、本当にすごいのは話す内容です。ロシアの話になったとき、核開発に関する自分の意見を日本語で熱く語る彼女は、もはや「日本語を話す外国人」ではありませんでした。意味が通じるだけですごい！と思っていた私は、それ以来、自分の考えや意見を伝えられてこそ本当のコミュニケーションなんだと思うようになりました。今回の留学で、彼女からはたくさんの刺激をもらいました。次に会うときには彼女に負けないように、自分を磨きたいと思います。

（高等部1年 中原野々子さん）



少人数で編成され、生徒たちが積極的に参加する授業



教員からのメッセージ

生徒たちは、今回の交換留学を通じてさまざまなことを学び経験しましたが、今の段階では、その価値のほんの一部にしか気づいていないかもしれません。しかし、成長とともに、より大きな価値に気づくときが来るでしょう。そんな“種”をこの学校にいる間にひとつでも多く手に入れてほしいと思います。

（担当教諭 浦崎和香）

数々の国内大会や国際大会で素晴らしい戦績をおさめ、2010年全国高等学校テニスランキング6位に輝いた、甲南高校テニス部上原伊織さんにインタビューします。

どうやったらテニスがうまくなるか、そればかり考えている。

全国高等学校テニスランキング6位に輝く甲南高等学校・上原伊織さん

「テニスは、試合になれば、1人で戦わなければいけない。コートもアドバイスできません。だから、勝つのも、負けるのも、自分次第。それが魅力です」と語る上原さん。

4歳からテニスを始め、中学・高校とテニス漬けの日々。

「両親がテニス好きで、いつかみんなテニスを楽しめたらいいなというきっかけからスクールへ通い始め、僕も夢中になったんです。上原さんは4歳からテニスを始め、甲南中学からテニス部に所属。その実力が買われて中学生の時から高校生に交じって練習を始める。全国大会にも中学3年生で初出場、見事全国ベスト16に入り、その後は全国大会の常連になった。中学2年生から指導している福井隆之監督は、彼のテニスへの姿勢を高く評価している。「彼の良さは、貪欲で、物怖じしないところ。まだ高校生だから繊細な一面もあって、勝ちたい気持ちがあるに強さぎると、うまくいかないことも時にはありますよ。でも、バフォーマンス、モチベーションを決して下げず、常に良い緊張感を持って練習や試合に臨んでいます」。中学・高校と朝から晩まで毎日テニス漬けの日々。でも、根っからのテニス好きの上原さんは、同級生が高校ライフをエンジョイする姿を一度もうらやましいと思わなかったと言います。「とにかくボールに触れているのが楽しい。練習で一度もしんどいと思ったことがありません。普段の生活でも、どうやったら上達するか、そればかり考えています」。

高校1年生で全国第3位に。日本代表にも選ばれる。

そんな甲南でのテニス生活で、忘れられないのが高校1年生のとき、全国選抜で団体・個人とも第3位に輝いたこと。「表彰式でまわりを見ると、いつ

もすごいなと思っているメンバーばかりだった。その中に自分がついてとまどいがあつたけど、自信がつきました」。その輝かしい戦績から、日・韓・中ジュニア交流競技会のメンバーにも選出され、晴れて日本代表のユニフォームに袖を通したことは、最高の思い出だ。卒業後は、多くの部活仲間とともに甲南大学へ進学し、テニス部でさらなる飛躍をめざす。高校での目標が、インターハイのシングルス優勝。高校2年でベスト8まで進み、今年も惜しくもベスト8。最後の夏も目標には一步届かなかった。「ベスト4進出を懸けた試合では、対戦相手も、僕も、足がつってしまつて、すごく悔しかったです」。そんな激戦での苦い経験から、もっと持久力とパワーをつけたいと、部活引退後もジムに通い、厳しいフィジカルトレーニングを自らに課している。悔しさをバネに次の大きな舞台へ、上原さんの次の目標は「インカレ優勝」だ！



おもな戦績			
Japan Open Junior Championships	平成22年	シングルス	ベスト8
全国高等学校総合体育大会	平成21年	シングルス	ベスト8
	平成22年	シングルス	ベスト8
全日本ジュニア選抜室内テニス選手権大会	平成22年	シングルス	第3位
全国選抜高校テニス大会	平成21年	団体シングルス	第3位
	平成22年	シングルス	優勝
関西ジュニア選手権大会	平成22年	シングルス	優勝

第17回日韓中ジュニア交流競技会（日本代表）／平成21年度国体少年の部、兵庫県代表／平成22年度国体少年の部、兵庫県代表（5位入賞）／平成21年度全国高等学校テニスランキング男子シングルス第6位／平成22年度全国高等学校テニスランキング男子シングルス第6位



甲南高校のテニス部員たちはみんな個性豊かで、自分をしっかりともちています。言葉だけでなく、自らの態度で示して後輩たちを引っ張ってほしいですね。

（上原伊織さん）

生徒たちが最大限の努力をして、最高のパフォーマンスを発揮できるようサポートするのが私のポリシーです。甲南大学テニス部が一部リーグに昇格し、大学王座で活躍することを楽しみにしています。

（福井隆之監督）

第一線で活躍する卒業生に、ご自身の生き方についておうかがいするこのコーナー。今回は、びあ株式会社で営業として活躍される石橋栄司さんにインタビューします。

OB訪問で出会った 甲南の先輩に憧れ、 夢だったマスコミ業界へ。

子どもの頃から本や雑誌が好きで、将来はマスコミで働きたいと思っていました。ぴあに入社したきっかけは、就職活動時のOB訪問。ぴあで働くお二人は、主体的に仕事に取り組み、とても輝いて見えました。「自分からアクションを起こすこと。そうすれば、ぴあは何にでもチャレンジさせてくれる。イベントもできるし、雑誌もつくれる。すべては自分次第」というお話を伺い、ぴあという会社にも魅力を感じました。

入社後、最初の6年間は大阪支社で、総務部を経て広告営業などを担当し、7年目からは東京本社へ異動。現在は、Jリーグなどのスポーツクラブや、日本サッカー協会などのスポーツ団体に対して、チケットを軸としたびあオリジナルのビジネスモデルを提案する仕事などに取り組んでいます。

阪神淡路大震災。 神戸復興のために 何かしたい。

大阪支社勤務のときに、阪神・淡路大震災が起きました。そのときの仕事が非常に思い出に残っています。

当時、私は広告営業で、モザイクや六甲アイランドなど、神戸のクライアントを担当していました。取引先の方に非常に良くしていただいていたし、神戸という街が大好きでしたから、震災には、本場にシヨックを受けました。すぐに『ぴあ関西版』を通じて、神戸の復興情報を発信していこうと企画しました。ところが、震災からわずか1ヵ月後、追い討ちをかけるように東京本社への転勤が決まったんです。なぜ今なのかと悩みながら、組織の一員として関西を離れた。

転勤後も、神戸のために何かしたいとい

の意識が少しでも変わってくれたら、という願いを込めました。大阪支社時代に担当していたクライアントからも、お礼の言葉をかけていただき、お世話になった方々に少しでもお返しできたことに喜びを感じた仕事でした。

スポーツ界の発展に役立つこと、 お客様が楽しんでくださる 顔を見ることが、それが喜び。

東京転勤後、私にとって大きな転機が訪れたのは、2000年。それまでキャリアの



びあ株式会社
ライブ・エンタテインメント局
ライブマーケティンググループ
宣伝・広告営業統括 執行役員心得

石橋 栄司氏

大半を過ごしてきた広告部から、まったく分野が異なるチケット事業部のスポーツ事業部へと異動になったのです。しかも、33歳で部長を任せられ、プレッシャーを感じました。異動後間もなくして、日本相撲協会(以下、相撲協会)のお仕事をさせていただきました。当時の相撲界は、若貴ブームが終わり、人気が低迷していた時期。私は、相撲界を再び活性化させるお手伝いをさせていただきたいと考え、当時の時津風理事長や北の湖親方などそうそうたる方々を前に、誰もが簡単にチケットを購入できるぴあのシステムを有効活用していただくことで、

スポーツビジネス界の 大先輩からの言葉が 私の仕事のバイブル。

以後、約10年間スポーツビジネスに携わってきたなかで確信したのは、日本のスポーツ・エンタテインメント界の発展に、私たちぴあが果たす役割は小さくないということ。これからは、単なるチケット販売代行会社ではなく、スポーツクラブのパートナーとして、思想・理念・目標などを共有しながら、さまざまな興行をお手伝いし、日本のスポーツ・エンタテインメントを盛り上げていきたいですね。スタジアムで多くのお客様の楽しんでもくださる顔を見るのはとても嬉しいですね。

どんな状況でも決して手を抜かない。
目の前の仕事を一生懸命やれば、
次のステップは自ずと訪れると信じています。



1989年甲南大学経済学部卒業後、びあ株式会社に入社。大阪支社の広告部などを経て、1995年から東京本社勤務。2000年にチケット事業部へ異動し、スポーツ事業部部長などを歴任。2010年より現職。趣味は読書とお笑い鑑賞。愛校心が強く、東京に在住する平成卒業の甲南OB・OGが集まる甲平会にも参加。「甲南の良さは、お互いを尊重できる精神が受け継がれているところ。卒業して20年以上経ってはじめて出会った同窓生とも、それぞれが生きてきた人生を尊重しあえる、良い関係を築けています」。

華々しい経歴のように思われるかも知れませんが、仕事で挫折したことはたくさんあります。なかでも、部長になったときには、私にとって未経験のチケット事業部だったうえ、部下は年齢もキャリアも上の方がかり。正直やりやすくはなかったです。そのときに私が大事にしたのは、一人ひとりと向き合い、ゴールを共有すること。同じ会社で働く仲間ですから、めざす目的地さえ共有できれば、力を合わせてやっていけると感じました。

また、部長になりプレッシャーを感じていたときに貴重なアドバイスをくださったのが、トヨタカップなどのスポーツイベントをまとめ、「日本におけるスポーツビジネスの開拓者」と言われる入江雄三さん(元電通専務、現びあ監査役)。特に私の価値観が変わったのは、「営業するときには、絶対にぴあを主語にしてはいけない」というお言葉。常に取り先やお客様の目線に立ち、取引先にもメリットのある提案をするということ。広告営業としてキャリアを積みできた私は、「いかに会社の利益を出すか」という視点にとらわれがちだったので、目からウロコが落ちましたね。入江さんからはほかに、「小さな成功を積み重ねることが大切。ホームランばかり狙うな」「利益が出たら、必ず取引先にお返ししなさい」などのご助言をいただき、今も私の仕事のバイブルになっています。

挫折を感じることは今でも多々ありますが、そんなときいつも思うのは、仕事には忍耐が必要だということ。決して手を抜かず、目の前の仕事を一生懸命やる。全力を尽くしていれば、次のステップは自ずと訪れると思います。そう信じて、これからも壁にぶつかっても諦めず、目の前の仕事に全力を尽くしていきます。

※当コーナーは、2010年11月29日に取材を行ったものです。

留学を契機に、社会貢献にチャレンジ!

「人財」支援団体 WEBAS 「大学生活を楽しくするのは自分自身だ!!」

甲南大学では、多くの学生が社会貢献に取り組んでいます。個人個人で活動する学生もいますが、社会貢献活動を展開する団体もいくつか存在します。今回ご紹介するWEBAS（ウェバース）もその一つ。一年間の海外留学が通常のカリキュラムに組み込まれたEBA総合コースの学生たちが立ち上げました。留学で大きく成長した彼らが、その経験を生かす活動として選んだのが社会貢献でした。彼らがなぜ人の役に立ちたいと思ったのか？社会貢献に取り組んで何を得たのか？WEBASに熱い思いに迫ります。



WEBASのこれまでの主な活動

ハロウィーンパーティー

外国人留学生と甲南大生の触れ合いの場として、ハロウィーンパーティーを企画。みんなで仮装大会などを行い交流を深めました。

清掃活動

甲南大生と留学生、地域の方々との交流を目的とした企画。地域の協力も得て、岡本地区や須磨の海岸などの清掃活動を行いました。

芦屋サマーカーニバル

運営スタッフとして参加。警備を担当したほか、フィリピンのストリートチルドレンが作ったミサンガを販売して収益を寄付しました。

岡本サマーフェスティバル

岡本商店街主催の夏祭りに出店。商店主の子どもたちにコミュニティの絆を感じてもらおうと、WEBASのお店を手伝ってもらいました。

御影小学校サポート

ワシントン州の外国人教員団が御影小学校を視察に訪れた際、小学生をサポート。英語学習のお手伝いや教員団の通訳を行いました。

大阪ヨーロッパ映画祭

運営スタッフとして参加。会場の設営や受付などを行いました。一部のメンバーは、海外から来日したゲストのアテンドも務めました。

※EBA総合コースは、2009年度よりマネジメント創造学部に進展的に継承されています。

What is WEBAS?

WEBASは、EBA総合コース※の第6期生が、留学の経験をたくさんの人たちと共有し、ともに視野を広げ成長していきたいという思いから2009年に立ち上げた「人財」支援団体です。

- 国際交流・留学
- キャリア形成・就職活動支援
- 地域貢献・ボランティア

をキーワードに、さまざまな活動に取り組んでいます。WEBASは、「WEB」（つながり）「EBA」 「STATION」（拠り所）を組み合わせた造語です。

WEBASの役割は、仲間と共に成長すること。

—— WEBASは、黒田さんが中心となつて立ち上げたそうですが、どのような経緯からWEBASを設立しようと思ったのですか？

黒田 「共に」もっと成長したい、もっと大学生活を充実させたいという思いからです。僕たちが所属するEBA総合コースは、在学中に1年間留学するのですが、留学したことで、人間的に大きく成長できたと実感しています。それは、EBAの仲間同士助け合いながら留学生生活を過ごしたことが大きいのではないかと思います。帰国後も、この仲間たちとの経験を他の多くの学生と共有することで、卒業までの大学生活を充実させることができるんじゃないか、周りとともにさらに成長できるんじゃないか、そんな思いから、WEBASを立ち上げました。

辰巳 EBAの留学は、経済学・経営学の講義を英語で受けるという、半端じゃなく厳しい学習プログラムが課せられるんです。もう精神的にも肉体的にもギリギリの状態に追い込まれます。でも、友人たちと力を合わせてその厳しさを乗り越えたら、成長した自分たちがいたっていう感じだよ。

大槻 そうそう！人と力を合わせて成長していくっていうことの喜びを実感したよね。

—— 具体的に、WEBASの活動について教えていただけますか？

黒田 まず、自分たちに何ができるのか？と考えたときに思いついたのが、地域貢献で最初に取り組んだのが、商店街を清掃するボランティアだったのですが、その活動で商店街の方と親しくなり、それ以来、頻繁に声を掛けてくださるようになりました。商店街の方にとって甲南は「近くて遠い存在」で、学生とあまり接点が無かったようなんです。WEBASの活動を通じて、甲南大生のことをより知ってもらえたみたいで、良かったです。

大槻 商店街の方との輪は確実に広がっているよね。私は、商店街がインターネットで中継している「岡本チャネル」という情報番組に出演させていただいています。レポーターを担当し、主に商店街のお店をレポートしているのですが、甲南の学祭中継など積極的に新しいことを提案し動いているのだから、自分たちががんばらないと」って言っていただきました。とてもうれしかったです。

WEBASに熱中したことが、自分たちのためになった。

—— 活動のなかで苦労したことはありますか？

辰巳 参加する学生を集めるのが難しいと思いましたが。最初の頃の企画では、500枚以上ビラを配ったのに、当日来たのは数人だけ…で、「ガーン」みたいな(笑)。

黒田 あれはショックだったよな。僕は、メンバーをまとめるのが大変でした。みんな個性が強く、自分の意見をしっかりと持っていて、はっきりものを言うから…。

辰巳・大槻 (笑)。

が、やはり、「留学の魅力や経験を他の甲南大生に伝えること」「だったので、「国際交流・留学」を活動の柱にしようと思いました。海外からの留学生と甲南大生が交流できるイベントを開催したり、学内の国際交流センター主催の留学相談会のお手伝いをしました。御影小学校に海外からの視察団が訪問したときには、小学生たちに英語を教えたり、通訳をさせていただきました。

次に、「地域貢献」。僕たちが留学したニューヨーク州のバッファローは、大学と密接につながっている。大学の街「だったんですよ。留学中に友人に誘われてたまたまWEBASメンバー数人が参加したボランティア団体の活動で、住む家がない母子家庭に、家を建ててプレゼントすることに取り組みました。家の引渡しの日、家をもらった母親が涙を流して「Thank you very much!」と言ってくれる姿を見て、自分の中で「もっと人の役に立ちたい！」という思いが湧き上がるのを感じたんです。そんな経験をしたことで、甲南も岡本という街にキャンパスがあるのだから、もっと大学と街がつながることができんじゃないか、そこで自分たちが役に立てたらいいな、と考えたんです。岡本商店街（以下、商店街）の清掃活動や夏祭りへの出店をしたのですが、やがて商店街を背負って立つかもしれない商店主さんの子どもさんに声をかけ、「商い」を経験してもらいました。須磨の海岸を清掃したときは、たくさんの方が参加してくれて、あつという間にきれいになったんですよ。

あと、やはり就職活動を経験した

僕たちが役に立てる分野だということから、就職活動支援も加えました。甲南大生の活動団体である「OBF」と連携して取り組んでいます。

—— 大槻さん、辰巳さんは、黒田さんからWEBASをつくりたいと聞かされたとき、どう思われましたか？

黒田 あ、俺も聞きたい(笑)。

大槻 留学中に、新しい自分にチャレンジしてみたい、仲間と何かに取り組みたい、その中で自分で主体的に行動してみたいと考えていました。そんなときにWEBAS設立の提案を聞いたので、即参加を決めました(笑)。

辰巳 「将平(黒田さん)、それはいい考えだ!」「って感心し、同意しました(笑)。EBA総合コースは、僕たちの1つ下の学年で名称がなくなってしまうのですが、それが非常に残念で、モヤモヤした気持ちでいました。WEBASが活動することで、EBAの名称や学んだことを残していきたいと思う、気持ちがスッキリしましたね。

活動への確かな手応え。
岡本商店街との絆を育む。

—— 2009年3月にWEBASを立ち上げてから約1年半活動されていますが活動を通して、どんな手応えを感じていますか？

黒田 WEBASの「WEB」は、つながりという意味で、活動を通して知り合った方たちとのつながりを大事にしようという思いを込めています。活動を通して確実に人の輪が広がっています。特に、地域を意識している僕たちにとって、商店街との絆が強くなってきたのが非常にうれしいですね。商店街に関しては、辰巳と香奈(大

WEBASがみんなの拠り所であってほしい!

自分たちで甲南を盛り上げることが充実した学生生活につながる。

経営学部 EBA総合コース 4年次
大槻 香奈さん
航空業界に内定。「サービスのプロとして、どうすればお客様一人ひとりに合ったサービスを提供できるのか考えて、どんどん提案していきたいです」。

経営学部 EBA総合コース 4年次
黒田 将平さん
総合商社に内定。「いずれは世界のなかで日本の価値や存在感を高める仕事ができればと思います。教育に携わる夢も持っているの、仕事を通じ自分が世界で経験したことを伝えて、夢を持てる子どもたちを育てていきたいです」。

EBAの名前を何かの形で残したかった。

経済学部 EBA総合コース 4年次
辰巳 裕紀さん
外資系海運会社に内定。「世界の物流が見えるやりがいのある仕事なので、EBAやWEBASの活動で身につけた語学力や広い視野を生かしてがんばりたいと思います」。

楓さん)の果たす役割が大きいよね。

辰巳 地域貢献で最初に取り組んだのが、商店街を清掃するボランティアだったのですが、その活動で商店街の方と親しくなり、それ以来、頻繁に声を掛けてくださるようになりました。商店街の方にとって甲南は「近くて遠い存在」で、学生とあまり接点が無かったようなんです。WEBASの活動を通じて、甲南大生のことをより知ってもらえたみたいで、良かったです。

大槻 商店街の方との輪は確実に広がっているよね。私は、商店街がインターネットで中継している「岡本チャネル」という情報番組に出演させていただいています。レポーターを担当し、主に商店街のお店をレポートしているのですが、甲南の学祭中継など積極的に新しいことを提案し動いているのだから、自分たちががんばらないと」って言っていただきました。とてもうれしかったです。

WEBASに熱中したことが、自分たちのためになった。

—— 活動のなかで苦労したことはありますか？

辰巳 参加する学生を集めるのが難しいと思いましたが。最初の頃の企画では、500枚以上ビラを配ったのに、当日来たのは数人だけ…で、「ガーン」みたいな(笑)。

黒田 あれはショックだったよな。僕は、メンバーをまとめるのが大変でした。みんな個性が強く、自分の意見をしっかりと持っていて、はっきりものを言うから…。

辰巳・大槻 (笑)。

黒田 今は活動が軌道に乗っていますが、当初は意見が衝突することばかりで、自分の未熟さを痛感しました。でも、EBAの名前が入っている活動である以上、いい加減なものにしたいという思いがあったから、とことうん議論したんです。結果的には、みんな腹を割って話し合ったことで、結束が強まったと思います。

大槻 WEBASが本格的に活動を始めた時期が就職活動と重なって、両立が難しい人が多かったよね。でも、そういう状況だからこそ、ダラダラしなくなったし、自分が任せられたことはちゃんとやろうという責任感が芽生えたと思います。

辰巳 大変なことはあっても、WEBASを通じて成長できたし、活動に熱中したからこそ、充実した学生生活を送れたよね。

——WEBASのこれまでの活動を通じて、得たことや学んだことはどんなことですか？

黒田 僕は、WEBASの代表を務めたことで、自分にとってリーダーシップとは何なのかを真剣に考える機会になりました。もともと、みんなの意見を聞き、それを生かして物事を進める人間だったのですが、人の意見を聞きすぎて責任を曖昧にしていた部分もあったと思うんです。でも、それでは行き詰まることもある。強い意志で物事を決める「判断力と決断力」を身につけなければと思いました。あと、僕は、失敗することを避けていたんじゃないかと気づいたんです。この経験を通じて、うまくいかなくてもいいからやってみようと思えるようになった。

になりました。WEBASの活動を通じてたくさんの人と接するうちに、自分の中に芯ができた感じでした。

大槻 私は、もともと自分から行動したり、意見を言ったりするタイプではなかったんです。でも、自分を変えたいと思い、WEBASの活動で部門のリーダーを決めるときに、初めて自分から手を挙げてみたんです。「リーダーをやってみる！」って。メンバーをまとめ、ひとつのプロジェクトをやりたいって、就職活動のときにも積極的に行動できました。

黒田 WEBASの経験を通じて香奈の印象が変わったよね。意見をどんな言うし、自分から行動しているし、「こんなに積極的な子だったっけ？」って頼もしく思った。

辰巳 僕は、自分の特性に気づきました。実行役として任された役割を責任持って遂行していくのが得意なタイプなのだと気づきました。

黒田 辰巳は、行動力があって、物怖じしないから（笑）。誰よりも行動が早い。彼は、相手が社会人の方でも、その懐に飛び込んで、積極的にコミュニケーションをとれる奴なんです。

自分たちの卒業後も、学生の力で甲南を盛り上げてほしい。

——最後に、今後のWEBASにどんなことを期待しますか？

大槻 WEBASの「S」は「STATION」という意味で、スタッフや活動で知り合った方の拠り所でありたいという思いが込められているんです。



強い意志を持って、何事にも挑戦したい!!



自分から動けば、変われるんだ!

懐刀のような存在になりたい。

卒業後もみんなの拠り所として、今後も続いてほしいと思います。

辰巳 僕たちが留学とWEBASの活動を通じて学んだことは、「自分が積極的に動くことで成長できる!」です。今後も後輩たちにはそうやって行動してほしい。

黒田 甲南にはWEBAS以外にも、留学支援や地域貢献、就職支援などの活動を行っている団体が複数あります。こうした団体が協力しあえば、甲南を今以上に元気にできると思うんです。卒業するまでに、WEBASの代表として、こうした団体同士が協力しあえる体制をつくり、大学に投げかけていきたいですね。学生が自分たち自身で甲南を盛り上げることが、充実した学生生活につながると思うから。将来的には、もっと多くの学生に参加してほしいし、教職員や卒業生の方々も巻き込んで、みんなが甲南を元気にしてほしいと願っています。俺たちも卒業生として参加したいよな!

辰巳・大槻 うん!!

EBA 高等教育研究所事務室のスタッフより一言 杉森 亮介

学生たちには、実際に「行動」「経験」し、多くを学んでほしいと考えています。たとえ失敗したとしても、その中から何かを得るはずでしょう。WEBASに対しても、そう思いながら応援していました。学生は、大人が想像する以上に大きな夢、意欲、エネルギーを持っています。そして、甲南大学生の成長機会、活躍の場は、キャンパス外にも広がっています。彼らの学生生活がさらに充実するよう、私も支援をしていきます。



生協のKさん

―病魔と闘った女性の記録―

～前編～

学生や教職員が毎日お世話になっている大学生協の食堂。そこで元気に働くKさんという女性がいきました。学生によく声をかけてくれて、まわりをパツと明るくする雰囲気になってくださった方でした。

ある日、食堂からKさんの姿が見えなくなりました。2009年6月のことです。「Kさんはお辞めになったんですか?」ある職員が、生協の方に聞いたところ、「実は病気で休んでおまして…。復帰にはかなり時間がかかるようです」とのことでした。Kさんは、非常に重い病を患っていらつしたのです。

しかし、このたび、Kさんが無事戻ってこられました。1年数カ月もの長く苦しかった闘病生活を終えて。

読者のみなさんが、つらいことや悲しみを乗り越えるときのヒントになれば—そんな願いを込めて、Kさんの闘病記を2回にわたってご紹介します。

腰痛、ろつ骨折 ―実は重大な病気だった―

最初はただの腰痛だと思っていたんですよ。もう歳だから、慢性的に腰が痛かったし。接骨院やマッサージ屋さんに通っていたらそのうち治るだろうと軽く考えていました。そうしてたら、2008年の11月に胸が痛くなって。病院でレントゲンを撮ってもらったら、ろつ骨が折れていると言われたんです。でも、「くしゃみして肋骨が折れるということもありますから」って医師に言われたのもあって、放っておいたんですよ。今思えば、全部病気のせいだったんです。

2009年6月5日のことです。自宅のお風呂でいつものようにシャワーを浴び

つらい治療に山のような薬

すぐにVAD療法という抗がん剤治療が始まりました。24時間の点滴（抗がん剤の投与）を4日間、数日空けて点滴と投薬を3日間、数日空けてまた点滴と投薬を3日間というのが治療の1クールで、血液検査をしながら何クールこの治療をするかという判断を医師にしてもらいます。私の場合、1回目は4クール、約80日間続きました。飲む薬の量が多くて…何と二日60錠。もう見るだけでいやになりますよね。

ありがたいことに、副作用は少ない方で、眠れなくなるといった症状が出たくらいでした。私はもともとのおんな気な性格なので、「そのうち眠くなって寝るわ」程度に思っていました。

80日間のVAD療法の後は、山ほどの薬をもらって一旦退院し、2010年の1月まで、VAD療法を受けるための入院と一時退院を繰り返しました。

2010年の5月からは、自己末梢血幹細胞移植という治療になりました。VAD療法の数十倍の抗がん剤を使うせいか、医師から口内炎、嘔吐、下痢、発熱など、副作用が強い治療だとあらかじめ聞かされていたが、このときも微熱と4日間吐き続けたというくらいで、私は副作用がほとんどなかったんです。もともと口内炎が得意なすいので、ひたすらうがいをしたのが良かったのか、恐れていた口内炎も起きませんでした。心臓に影響が出て治療さえできない人もいるらしいんです。それを考えると、治療を受けることができただけ、私は幸せです。丈夫に産んでくれた親に感謝ですね。

（次号へ続く）

※写真はイメージです。



長期間にわたってつらい治療を受けてこられたKさん。肉体的にも精神的にも相当なダメージを受けられたことがうかがえます。Kさんは、その苦しみをどのようにして乗り越えられたのでしょうか?

次号では病魔と闘うKさんを支えた、心温まるエピソードの数々をお届けします。どうぞ、ご期待ください。

世界を舞台に活躍される指揮者、佐渡裕さん。最近では、世界最高峰といわれるベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の定期公演に出演するニュースが大きく報道されました。その佐渡さんがオーディションによって全国から選出した小中高生をオーケストラに編成し、一流の演奏家に育て上げるのが、「佐渡裕とスーパーキッズオーケストラ」。その演奏技術は大人顔負けのレベルで、毎年8月下旬に兵庫県立芸術文化センターで開催される彼らのコンサートのチケットは、即日完売となっています。

甲南学園は、社会貢献事業のひとつとして「次の世代を担う人々を育成する活動」を応援しており、「佐渡裕とスーパーキッズオーケストラ」に関しても、「提供」という形で支援しています。

そのご縁で、昨年8月、コンサートのリハーサルを見学させていただくこととなりました。参加者は、大学・高中の音楽系課外活動団体などの学生・生徒たち。リハーサルを見学することは、ある意味、本番に匹敵するほど価値のある機会。見学後、参加者より大きな感動の声が寄せられました。もちろん、コンサート当日の演奏は素晴らしいもので、見学した学生・生徒は、1つのコンサートを成功させるための努力の大切さを学んでくれたようです。佐渡さん、スーパーキッズのみなさん、ありがとうございました！

TOPIC 1 佐渡 裕とスーパーキッズオーケストラのリハーサル見学ツアーを開催！



佐渡裕さんを囲んで、記念写真も撮影させていただきました

参加した学生のレポートを紹介！

広いホールには、佐渡さん、スーパーキッズと私たち甲南大学、甲南高校・中学の学生・生徒たちだけ。ピンと空気の張り詰めたリハーサルで、私も緊張しながら見学しました。キッズたちは、私よりはるかに年下の人たち。最年少は小学3年生だそうです。でも、彼らのみなさんは真剣で、澄んでいました。曲の一部を少し演奏し、佐渡さんの指導が入ります。不思議なことに、佐渡さんが一言アドバイスを加えるだけで、明らかに音が変わるのです。まるで、魔法のことばのようでした。また、佐渡さんのことは穏やかで優しく、スーパーキッズたちの深い愛情を感じました。キッズの佐渡さんに対する信頼の高さもうかがえました。何だか心温まる映画を観たような気持ちです。(文2 鼻野 香菜子さん)

TOPIC 2 24時間テレビ「愛は地球を救う33」の募金活動に甲南大生が参加！



どうも
ありがとう！

おねえちゃん、
がんばってね！

募金へのご協力、
ありがとうございました！



●その他の参加学生(敬称略)

田ノ岡 尚吾(理工4)、藤枝 佑一朗(理工4)、松下 正人(理工4)、脇 陽子(文3)、安立 理香(文3)、小原 千絵(文3)、山口 彰護(法3)、岡本 昌訓(知能情報3)、奥田 祐士(知能情報3)、前島 里江可(知能情報3)、前中 一(知能情報3)、中川 葉津紀(経済2)、安井 亜美(経済2)、舩賀 夕貴子(法2)、宮崎 有紗(法2)、後澤 貴哉(経営2)、浅田 春菜(知能情報2)、中岡 明日香(マネジメント創造2)、山川 和(文1)、畑 秀香(経済1)、村田 明未(経済1)、米井 淳(法1)、神藤 龍文(経営1)

甲南大学が農業イベントを開催したという情報をキャッチ！
今回の特捜部は、その真相に迫りました。

考えよう！“食べ物の尊さ” 稲刈り・イモ掘り体験 in 奈良・明日香村 ～みんなで“アスカルチャー”レポート～

みなさまから寄せられた疑問を徹底調査！
こちら
甲南特捜部

私たちが日々口にしているお米や野菜は、たくさんの人の手により大切に育てられています。ところが、食料が豊かになった現代では、そのありがたみをつい忘れているときがあります。そこで、甲南学園広報部では、“食べ物の尊さを楽しんでいただきたい”という思いから、2010年10月24日(日)、農業体験プログラム「みんなで“アスカルチャー”」を開催いたしました。ご参加いただいたのは、一般公募でお集まりいただいたご家族連れを中心とする17組54名の方々。甲南大学生とともに、豊かな自然が溢れる奈良県明日香村で稲刈り・サツマイモ掘りを体験していただきました。当日の様様をご紹介します。

1 まずはミニ授業とお昼ごはん

明日香村到着後、まずは高松塚古墳で高木昌要非常勤講師によるミニ授業をお聴きいただき、その後、美しい景色を見ながらお昼ごはんを召し上がっていただきました。



2 いよいよ農業体験 稲刈りに挑戦！

ケガをしないように気をつけながら、鎌で一束ずつ刈り取り。最初はみなさん慣れない手つきでしたが、徐々に手際よく、リズムカルに刈り取れるようになりました。



甲南大学生が
みなさんのお手伝いを
させていただきました。

3 お次はサツマイモ掘り！

まずツルを取り除いてから、ようやくイモ掘りができるようになります。ツルの除去、イモ掘りともに意外と重労働。気がつけば、今日初めて会った参加者同士が力を合わせ、1本のツルにたくさんついたおイモを傷つけないように、慎重に掘っていただきました。



初めて会った
参加者同士も協力！

4 そして、おまじかねの焼きイモ！

野外でたき火をしてじっくり焼いたサツマイモは、ほくほくして甘みがあり、心も温まるおいしさ！一穀あすかさん(農事組合法人)のお心遣いで黒豆の煮物もご提供いただき、みなさん大喜びでした。同時に森田三郎文学部教授によるミニ授業で、再度お勉強もしていただきました。

5 最後にサプライズも！

焼きイモを食べて終わるはずのプログラムでしたが、最後に一穀あすかさんがご用意してくださったうれしいサプライズ！何と、ブドウ狩りもさせていただけることに！背の高い人は屈まないといけなほどの低いブドウ棚に入り、収穫。なかにはおうちに帰って食べるのを待ちきれず、その場で食べる人も…！



たくさん採れました！



この日は、あちこちで歓声が途切れることのないほど盛り上がりしました。それは、収穫の楽しさによるものだけではなく、参加者同士の交流や、昆虫・カエルなどの生き物を見つけた子どもさんの喜びと驚きの声が生んだにぎわいでもあったのです。サツマイモとブドウだけでなく、心の中にたくさんのおみやげを持って帰っていただけたようです。参加者のみなさん、ありがとうございました！

なぜ、神戸にある甲南大学が
奈良の明日香村で
イベントを開催したのか？

明日香村と甲南大学とのつながりが生まれたのは、数年前に甲南の大学院生が研究調査のため、明日香村にお世話になったことがきっかけです。

その時の縁がもとになり、翌年からは学生たちが農地を借りて、明日香村の農業再生に取り組み農事組合法人「一穀あすか」の方々に指導していただきながら、一年を通じて農業に携わるようになりました。学生たちは、現代の農村が抱える課題を学びつつ、実際に農作業を体験することで、農業や伝統的な文化への関心を深めています。

※当プログラムは、農事組合法人「一穀あすか」にご協力いただき、甲南大学文学部およびCDC(コミュニティ・デザインセンター)と連携して実施いたしました。CDCについては、甲南Today No.36で詳しくご紹介しており、当該記事は、インターネットでもご覧いただけます。
(http://www.konan-u.ac.jp/kouhou/pdf/today36.pdf)

みんなで“アスカルチャー”協力学生(敬称略)

藤田 和樹(文4)、金田 真幸(法4)、加来 あやな(文3)、久保田 晴香(文3)、平本 香織(文3)、中村 建臣(文2)、山川 和(文1)、磯田 かえで(文1)

曾我部講師(スポーツ・健康科学教育研究センター)が、文部科学省より、「スポーツ功労者顕彰」を受けました！

このたび、スポーツ・健康科学教育研究センターの曾我部晋哉講師が、「スポーツ功労者顕彰」を受けました。スポーツ功労者顕彰は、世界的規模のスポーツ競技会において優れた成果を上げた方、また、多年にわたりスポーツの向上発展に貢献することにより、我が国のスポーツの振興に関し特に功績顕著な方を文部科学省が表彰するものです。

曾我部講師は、「2010年世界柔道選手権東京大会において、金メダリストを輩出した指導者」として受賞し、表彰式は、2010年11月1日(月)ANAインターコンチネンタルホテル東京で行われました。

ほかにも、レスリング世界選手権(モスクワ・9月)女子55キロ級で8連覇された吉田沙保里さん、体操世界選手権(オランダ・10月)男子個人総合で2連覇された内村航平さん、射撃世界選手権(ドイツ・8月)で2冠の松田知幸さんなどが表彰されました。

曾我部講師、おめでとうございます！



ストラディヴァリウスサミット・コンサート2011 兵庫公演
甲南学園特別ご優待のお知らせ



世界最高の弦楽器として名高いストラディヴァリウスを集めて名門ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団が演奏を行う、「世界最高の楽器と世界最高のアンサンブルによる夢のコンサート」「ストラディヴァリウス・サミット・コンサート2011」が、今年も日本で開催されます。甲南大学・高校の学生・生徒およびその父母、ご卒業生等関係者の方は、その兵庫公演において、特別価格でチケットを購入していただけます。

甲南高等学校で、ストラディヴァリウスを愛用していた天才音楽家 貴志康一が学んでいたという縁から、特別な価格と専用の受付電話番号をご用意いただきました。兵庫公演等特定の会場のみ、特別プログラムとして貴志の作品「龍」が演奏されます。

【会場】神戸国際会館 こくさいホール
【日時】2011年5月28日(土)14時開演
【料金】S席 通常価格12,000円のところ
9,500円

※A席・B席は完売のため、ご優待価格のご案内はS席のみとなります。
【受付期間】5月24日(火)23時29分まで
【受付電話】0570-08014005
【コード】56149(オンラインチケット電話予約センター内 甲南学園特別受付番号)

※予定枚数が終了次第締め切らせていただきます。
※ご予約ご購入後のキャンセルはできません。
※本件に関するお問い合わせは、キヨードー大阪(06-7321-8855)までお願いいたします。
【ストラディヴァリウス・サミット・コンサート2011公式サイト】<http://www.ssc2011.com/>

●体育会戦績報告●(敬称略)

【アーチエリート部】

つま恋カップアーチエリート大会(9月)
後藤有希奈(法1)・第7位

【硬式庭球部】

関西チャレンジトーナメント(10月)
権藤丞(文2)・大町慶雄(法1)・ダブルス優勝

【硬式野球部】

2部リーグ戦(8~10月)
3季連続優勝、入替戦で天理大に敗れ、2部残留

【自動車部】

全関西学生ダートトライアル
選手権大会(11月)

団体優勝 ※春秋連覇
竹本幸広(経営4)・個人優勝 ※春秋連覇
中澤康介(知能情報3)・個人第3位

【柔道部】

近畿ジュニア体重別選手権大会(7月)
藤田淑暉(法2)・90kg級ベスト4(第3位)

【少林寺拳法部】

関西学生新人大会(10月)
田尾昇平(理工3)・乱捕り男子中量級の部
最優秀賞

玉田健一(理工3)・乱捕り男子軽量級の部
最優秀賞
棕本祥太(理工2)・単独演武男子有段の部
最優秀賞

【準硬式野球部】

秋季関西大会(10月~11月)
2年ぶり3度目の優勝

2010年秋季
近畿六大学リーグ(9~10月)
7勝1敗2分で優勝

【ヨット部】

全日本学生女子ヨット選手権大会(9月)
総合第9位

関西学生ヨット選手権大会(10月)
470級第3位、総合第3位

みなさんのファイトに心からの拍手をお送りします

【ライフル射撃部】

第23回全日本女子学生
ライフル射撃選手権大会(10月)

田中温子(文4)・個人第8位

第1回秋季全関西学生
チームライフル記録会(11月)

小橋祐美(文1)・個人優勝
肥田友紀子(知能情報1)・個人第2位

第2回秋季全関西学生
エアピストル記録会(11月)

村部功(経済4)・個人第3位

【陸上競技部】

近畿陸上競技選手権大会(8月)

竹内亜喜(経営3)・七種競技第2位
戸田絵里菜(経営2)・400mH第3位

関西学年別大会(10月)

橋本美奈(文4)・女子3・4年100m第3位
加藤亜友美(文2)・女子1・2年200m優勝
勝・女子1・2年400m第2位

石本麻衣(文3)・女子3・4年400m優勝
酒井絵莉(文1)・女子1・2年800m第2位
竹野芽香(文1)・女子1・2年100mH優勝
竹内亜喜(経営3)・女子3・4年400mH優勝
勝・女子七種競技第3位

藤原遥(経済2)・駒場沙紀(文3)・衣笠由理佳(文1)・橋本美奈(文4)・女子4×100mR第2位

宇野琴絵(文1)・加藤亜友美(文2)・友谷美佐子(文2)・三宅奈緒香(文2)・女子4×100mR第3位

北本加奈(経営2)・衣笠由理佳(文1)・畑中友希(文1)・石本麻衣(文3)・女子4×400mR第2位

仁木俊輔(経済1)・男子1年1500m第3位
藤原風希(文2)・男子2年3000mSC第3位

【日本拳法部】

第11回西日本学生拳法
個人選手権大会(6月)

味合俊由(法2)・男子段外の部第2位

【釣クラブ】

全日本学生魚釣連盟関西支部主催
秋季投げ釣り大会(11月)

北村元信(マネジメント創造1)・優勝
西田和矢(経営4)・第3位

アンケートPRESENT

10
名様

甲南大学オリジナルエコバッグ

たっぷり入る大きめサイズ(33cm×47cm×14.5cm)です！

美術部OBお手製ビーズアクセサリ

オール甲南の集いや岡本商店街サマーフェスティバルで大人気、美術部OB原日向さん手づくりのビーズアクセサリ(本体部分長さ約6cm)。携帯電話のストラップなどとしてお使いいただけます。※色は選べません。

ご希望の方は、同封のアンケートハガキにてお申し込みください。

応募締切 2011年3月31日到着分まで

30
名様



次号は2011年5月発行予定

甲南Today^{NO.38}

発行日/2011年3月1日
発行/甲南学園広報部
〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1
TEL(078)431-4341(代)
印刷/大日本印刷株式会社

【お詫びと訂正】

「甲南Today」No.37のP21「JRの切符は分割で買くと安くなる場合がある？」でご紹介した切符の購入方法について、内容に誤りがありました。JR各駅では、指定券との同時購入や無人駅から乗車する場合を除き、原則として、お買い求めになる駅からの切符しか販売されておりません。したがって、「みどりの窓口」では切符を分割でご購入いただけません。読者および関係者のみなさまにご迷惑をおかけしたことをお詫びし、訂正申し上げます。



甲南大学のホームページでは、KONAN FORUMに掲載している情報以外にもたくさんのニュースをご覧いただけます。ぜひご覧ください！

甲南大学ホームページ

<http://www.konan-u.ac.jp/>

甲南大学の教員と
卒業生が執筆した
新刊レビュー



現代語訳
文明論の概略

伊藤 正雄
[甲南大学名誉教授]訳
慶應義塾大学出版会
¥3,500(税抜)



今日から始める
カンタン英語でブログ

浅羽 真由美
[甲南大学 特定任期教員]著
マクミラン ランゲージハウス
¥1,700(税抜)



旅の途上で

古川 顕
[甲南大学 経済学部教授]著
ナカニシヤ出版
¥1,600(税抜)



ハタチの原点

阿部 真大
[甲南大学 文学部講師]著
筑摩書房
¥1,400(税抜)



とっておきの出会い方シリーズ
YUBISASHI
ワンテーマ指し会話
韓国×雑貨

松田 洋奈
[1997年 甲南大学文学部卒]著
情報センター出版局 ¥880(税抜)



神様のバラドックス
上・下

機本 伸司
[1979年 甲南大学理学部卒]著
ハルキ文庫 ¥667(税抜)



ホームズなんでも事典

平賀 三郎
(本名・田上 綱彦)
[1961年 甲南大学経済学部卒]編著
青弓社 ¥2,000(税抜)



想ひの届く日
天国に一番近い島へ

森嶋 南風子
(本名・森嶋 八洲樹)
[1958年 甲南大学経済学部卒]著
文藝春秋 ¥1,429(税抜)



盤上遊戯の世界史
シルクロード 遊びの伝播

増川 宏一
[1949年 旧制甲南高等学校卒]著
平凡社 ¥2,800(税抜)